

# 共生共同体を目指して

松本 秀樹

(岸和田小教区評議会長)

岸和田教会では、2020年1月の小教区評議会、村田神父様からの「外国人信徒にも評議会に入ってもらいたい。評議会は教会の方針を決める基であり、教会の現状と将来を考えて姿勢を決めてもらいたい。」との提言を受け、外国人信徒の委員会「共生委員会」を立ち上げました。

そして、月1回主日のミサをインターナショナル方式にし、第2朗読と第4共同祈願のひとつを英語、ハングル、ベトナム語で行ってきました。こうして歩み始めた多国籍の人々が共に集う共生共同体作りの取り組みでしたが、新型コロナウイルスの感染拡大によって、主日の公開ミサが中止、あるいは2回制にせざるを得ない状況となり、集い、交わることが大幅に制限されたため、それこそ半歩となりました。

そんな停滞状況に転機が訪れました。教皇フランシスコが、全世界の教会に向けて第16回シノドス（世界代表司教会議）を2023年10月に開催することを宣言されました。

テーマは「ともに歩む[シノドス]の教会のため—交わり、参加、そして宣教」です。画期的だったのは、従来のように代表司教による会議ではなく、先ず、すべてのキリスト者の声に耳を傾け、そこから見えてきた課題を深め合うプロセスを大切にすることでした。その準備のために10のテーマがバチカンから示され、大阪教区でも質問票として各現場に回答要請がありました。

岸和田教会では、取り組んでいる「共生共同体の実現」を推進していくために、10のうち「共に歩む」ひとつにテーマを絞り、アンケートを実施しました。

結果、「共に歩む」ために大切なこととして、「思いやり」「寄り添う」「一緒に歩く」「声をかける」「交わりの場」という5つのキーワードが浮かび上がってきました。

次のステップとして、このキーワードを実践していくためのアイデアを募りましたが、具体的な事となるイメージが湧きにくかったのか、なかなか集まらず、第2の壁に突き当たりました。

そんなとき、村田神父様から「交わりを深めるためには、先ずは外国人信徒と日本人信徒がお互いの名前を覚え合うことから始めてはどうか」との提案があり、評議会で検討し、交流会として実施することになりました。やり方は、ミサ後、聖堂で外国人と日本人がひとつのグループを作って、自分の名前をカタカナで書いたネームカードを交換することから始め、自己紹介やそれぞれの母国語の「おはよう」とか「さようなら」などの挨拶を互いに学び合うようにしました。

11月と12月に2回行いましたが、それぞれ30人位の参加者があり、「いろいろな方と交わって良かった」「毎月1回出来る」とい声があり、好評でした。外国人信徒と日本人信徒の壁が少しずつ低くなってきていると感じます。

今後も、一人ひとりが力を合わせて、国籍の違いを多様性の恵みとして受けとめ、神様からいただいたお互いの賜物を生かし合う共生共同体への道を歩んでいきたいと思ひます。

Aiming for a Symbiotic Community

Hideki Matsumoto

Kishiwada Parish Council President

At the parish council meeting in January 2020, Father Murata told us, at the parish council meeting in January, 2020, that he wanted a foreign member of our community to participate in the council meeting that decides on the basic policy of the church and to express their candid opinions and thoughts on the current state and future of the church. In response to his request, it was decided that the coexistence committee consisting only of foreign faithful would be established.

Once a month, the Sunday Mass had been held in such an international form as the second reading and the fourth prayer of the faithful to be conducted in one language from English, Korean, or Vietnamese. In this way, we started out our efforts to create a symbiotic community where multinational people could gather together. However, in order to prevent the spread of the novel coronavirus, even Public Masses on Sundays were canceled or resumed, there was no choice but to hold them twice. Under such stagnant conditions a turning point came in. Pope Francis announced that the 16th Synod Assembly of Bishops in the Vatican scheduled to be held in October 2023 and has as its theme "For a Synodal Church: communion, participation and mission." What was epoch-making was that, instead of the conventional meeting of representative bishops, the process of listening to the voices of all Christians and deepening the issues that came to light was emphasized.

The Vatican presented 10 themes for the preparation, and the Osaka Diocese requested responses from each site as a questionnaire. At Kishiwada Church, in order to promote the "realization of a symbiotic community" that we were working on, we narrowed down the theme of

"walking together" out of 10 themes and conducted a questionnaire. As a result, we learnt that the five key words of "caring," "getting close," "walking together," "calling out," and "place of fellowship" were important for walking together. As the next step, we solicited ideas for putting these keywords into practice, but when it came to specifics, we couldn't get enough of it and hit the second wall. At that time, Father Murata suggested, "In order to deepen fellowship, first of all, foreign and Japanese believers should start by learning each other's names." Then, at the council meeting, we decided to implement it as an exchange meeting after consideration. Specifically, after the Mass, we formed some mixed groups of foreigners and Japanese at the chapel, and started by exchanging name cards with their names written in katakana, introducing themselves and speaking their native language. We tried to learn from each other greetings such as good morning and goodbye. We held it twice, in November and December, and about 30 people participated each time. There were some comments such as "It was good to meet various people" and "It would be nice if we could do it once a month." It was well received. We felt that the wall between foreign believers and Japanese believers was getting lower little by little

From now on, each and every one of us will do our best to accept differences in nationality as the blessings of diversity, and walk the path of a symbiotic community where we can make the most of each other's gifts from God.



## 教皇フランシスコメッセージ

### 「コロナの世界を生きる」抜粋（9）

第二部 選ぶとき（5）



今とは違う未来を夢見るには、個人主義ではなく友愛の精神を選ばなくてはなりません。人々が互いに仲間意識をもち、人類全体の一員であると感じる友愛の精神があれば、皆で力を合わせて、同じ可能性の地平線に向かって進んでいくことができます。

今、この種の団結が痛切に求められています。パンデミックは、私たちが以前より繋がっている一方で、以前より分断されているという矛盾を明らかにしました。行き過ぎた消費主義は絆を断ち切ります。その結果、私達は自己保身に走り、一層不安になります。そしてその不安は、社会に対して権力を行使しようとするポピュリズムの政治家たちによって煽られます。高齢者や無職の人や、身体の不自由な人や、胎児を余計者と捉える使い捨て文化の中では、皆が同等の尊厳を共有する社会を作るのは困難です。だからこそ、私は全ての良き心をもった人々に向けて、アッシジの聖フランシスコに影響を受けた、友愛の精神を希求する回勅（全ての兄弟姉妹たち）を書いたのです。

イエスは教会を、潔白の磐石として作られたわけでも、英雄や聖人が居並ぶ場所として作られたわけでもありません。それはもっと活力に満ちた、聖霊の闘争と識別のための場所であり、罪と誘惑と共に恩寵が満ち溢れる場所なのです。信徒と同様、教会も神の慈悲を必要としています。私達は他者を、その罪や過ち故に拒絶するのではなく、その人が本来の姿でいられるように手助けをすべきです。同様に、キリストの信徒たちも罪や過ち全てをひっくるめて教会を愛し、その声に耳を傾け、励まし、責任を負うべきです。教会が弱さや罪深さを示したら、立ち直るために力を貸しましょう。

6世紀の修道士ガザのドロテウスが提唱する「自責」は、神は私達を誘惑の中に置き去りにされないと説いた神父たちの英知から生まれたものです。私達は自分を責めることで「自分を低く」し、私達を結びつけようとする神の行動が入り込む隙間を作るのです。自責する人たちは、イエスが山上の説教で幸いであるとした「心の貧しい人々」の姿を現しています。「ルカによる福音書 18：9～13」では、取税人とパリサイ人を対比しています。取税人が「神様、罪人の私をお許しください」と祈る一方で、パリサイ人は自分がほかの人たちのような人間でないことを神に感謝するだけで祈ることをしませんでした。

「自分を低くする」という行為は、へりくだって自らの過ちを告白することです。自らを罰するのではなく、神に依存し、神の恩寵を必要としている自分を認めることです。私は、他人の過ちや限界を責めるより、自分の過失や落ち度を見つけるようにしています。そして創造主である神から愛され、大切にされていることを確信しつつ、前進するために必要な恩寵を求めます。神に向かって心を開き、扉を開けて入ってきて下さるようにします。なぜなら、神は決して無理強いはなさらないので、私たちが招き入れないといけないからです。それができれば、私は兄弟姉妹のあらいを見つけたことをやめ、彼らもまた苦しみ、助けを必要としているのだということに気づき、彼らに尽くそうと思えるのです。

## 共に歩む教会（シドスって？）

カトリック和泉教会信仰養成委員会

2021年ローマ教皇庁は、全世界のカトリック信者に向けてシドスに取り組むように宣言されました。シドスのテーマは、「共に歩む教会－交わり、参加、そして宣教」です。

まずは、去年岸和田地区内において、講座を開催し、シドスの理解を深めるように努力してきました。それを受けて去年12月18日和泉教会では、ミサ後評議会のメンバーで分かち合いを行いました。どのような和泉教会を目指すのか話し合いました。

まず和泉教会の良い点、問題点を出し合い、和泉教会の現状を分かち合いました。

12月18日、この日の英語ミサがありました。すべて英語であるにもかかわらず、多くの日本人の方が来てくれました。外国人も、日本人もみな同じ教会の家族である。コロナのためパーティーなどがなくなり、人と人との交流が希薄になった。などいろいろな意見ができました。その一部を紹介します。

## ① 共同体

外に向けた、教会のあり方を一人一人もう一度見つめ直してみる。

共に歩む。廻りの人たちが、みんな共に歩む事ができるようになるには。

委員会のメンバーが少ない。

名札の着用を今一度考え直す。

講座の集まりが少ない。

## ② 共生

ベトナムの方達はことばがわからないのに毎週ミサに来られてすごいと思う。

フィリピンの方々やベトナムの方々と、もっと親しくなりたい。

We walking together.

## ③ 子ども 青少年

若年層の教会離れをいかにくい止めるか？

青少年にどうやって教会に来てもらうか。

## ④ 高齢者

高齢者の方々が来られなくなった（コロナで）

高齢者の一人暮らしの方々をどうサポートするか。

高齢者の方々が教会に来やすくなる為の送迎を考えなくては。

高齢者の方々にハガキを出しただけで、喜んでもらえた。

## ⑤ 共生

外国信徒と日本人との係を考える。

外国の方々が多くなり開かれた教会になりつつある。

日本人信徒と外国人信徒の交わりの機会が増えた（アニバーサリーミサ等）

日本人以外の方が増えてきている。和泉教会も国際化が進んでいる。

We walk together into the future.

## ⑥ 総務

教会の庭の草刈り、平日のそうじをしてくださっている方に感謝！

司祭館を取り壊す。

教会を維持してゆくための、分かち合いの場が少ない。

信徒会館の2階をどう使用するか。

教会からの連絡が届いていない人がいる。

## ⑦ 交流

だれかにたのむ前に、自分ならどうするか考えて、いっしょに解決できたらみんなハッピーだね。

新しい人への対応が上手くできていない。

信徒の方々との交わりをもちたい。

教会はだれのもの？ みんなで協力してよい教会にしたいです。

和泉教会は、がんばっているけど、もっと皆が参加してほしい！

信徒の方々の顔と名前を覚えたい！

教会にコクセキは関係ないよ！ みな一つ！

信徒ひとりひとりがもっと教会活動に関わるようにするには？

森内さんのおかげで手話と要約筆記が整備された。

信徒と評議会との隔たりを感じる。

## お知らせ

・2月より新しい典礼聖歌の練習を始めます。ミサ後15分くらいです、参加お願いします。

・2月19日の英語ミサはタガログ語(フィリピンの言語)で行います。

・いづみブロック四旬節黙想会予定、3月19日浜寺教会

詳細は決まりましたらお知らせします。

・新役員選挙を四旬節中に役員選出の規約に則り実施します。

評議委員を連続2期務めた方以外の18歳以上の信徒の方全員が候補となります。

・キリスト教一致祈祷集会は双方の教会の都合により、5月または6月に延期します。

詳細は決まりましたらお知らせします。

・初聖体について、6月11日(日)に予定しています、対象者は1名（相良美里さん）

1月29日志願式、2月より勉強が始まります、皆さんよろしく願います。

## 古い枝を回収します。

昨年までの、古い枝を2月19日までに、教会にもってきて回収籠に入れてください。

燃やして今年の灰を作ります。

2月主日ミサ予定	浜寺 9時30分	和泉 9時30分	岸和田 9時30分
5日(日) 年間第5主日	村田神父	ジュアン神父 評議会	ロペス神父
12日(日) 年間第6主日	ジュアン神父 ポルトガル語 11:00 イポリオット神父	ロペス神父	村田神父
19日(日) 年間第7主日	ロペス神父	村田神父 タガログ語 11:00 村田神父	ジュアン神父
22日(水) 19:00～ 灰の水曜日	ジュアン神父	ロペス神父	村田神父
26日(日) 四旬節第1主日	村田神父	ロペス神父	ジュアン神父 英語 11:00 ジュアン神父

## ～2月の予定とお知らせ～

※聖書100週間の分かち合い・毎週土曜日14時30分(Sr.ルイザ担当)



3日(金)初金ミサ 9:30～ 村田神父  
19日(日)タガログ語ミサ 11:00～ 村田神父  
22日(水)灰の水曜日のミサ 19:00～ ロペス神父



2月の典礼 奉仕当番	先唱	朗読	共同祈願
5日(日) 年間第5主日	五朮 光政	レイシエル 瀬上 和昭	ロッチ 渡辺 直彦
12日(日) 年間第6主日	瀬上 和昭	勝田恵美子 小野田 裕	森 郁枝 五朮 光政
19日(日) 年間第7主日	小野田 裕	渡辺ひろみ 西川 保彦	福田 京子 瀬上 和昭
22日(水)19:00～ 灰の水曜日	西川 保彦	堀川美智代 渡辺 直彦	渡辺ひろみ 小野田 裕
26日(日) 四旬節第1主日	渡辺 直彦	中原ミヨ子 喜山章次郎	西川 愛日 西川 保彦